子育て支援団体で学んだこと

活動先　親子の広場　あんだんて

1.活動先紹介

　親子の広場あんだんては東浦町の中で、子育てを支援している団体である。NPO 法人格は取得しておらず「第二の実家」をテーマに気軽に親子がふれあえるような場を提供している。主な活動内容としては、子育てに関する相談などを目的に活動している。

2.活動目的

　今日の小学生は、私たちが小学生のころと違ってどのような違いがあるのかを見つけ、地域としてどのようなニーズがあるのかサポートができるのかを考える。

3.活動内容

◎一日の活動の流れ

朝礼→宿題・読書→昼食→自由あそび→学生が企画した活動→自由遊び→帰りの会(→反省会)

1 日目：スライム作り

目標→普段小学生だけではできない遊びを提案し今活動の入りをつかむ。

　まずは、私たちに興味を持ってもらうため小学生の関心を引く遊びを提案。そこで考えたのがスライムであった。実際にこの日スライムを作ったが失敗してしまった。しかし子ども達はどのようにしたら、いいものができるのか私たちに関心をもってくれた。

2 日目：カレー作り

目標→カレー作りを通して年齢間の交流をつくる。

　事前訪問で活動先の方から、「現代の小学生は、世代間を超えて遊ぶことが少なくなってきている」と伺っていた。そこで、カレー作りの工程の中で、みんなでつくるということを重点に活動した。一日目は同じ学年同士での会話が目立っていたが、このカレー作りを通して世代間を越えて協力し活動に取り組むことができた。

3 日目：広場でのあそび

目標→からだを動かしての集団あそび

　普段のあそびの中できまったメンバーだけでのかかわりになってしまいがちである

ので、他の子ともかかわるきっかけを作ることを狙いに室内でボーリング、輪なげなどのゲームを行った。賞状なども用意したこともあって皆でもりあがることができた。

4 日目：たからさがし

目標→野外に出てのあそびをする

今日の子供たちの取り巻く環境ではさまざまなものであふれている。テレビゲームなど楽しいあそびもあるが、それだけではなく野外に出ての活動を行った。活動場所ちかくの小学校の裏山に行き、たからさがしをして楽しむことができた。今までの活動の成果もあってか、自分がたからを見つけおわっても、まだ見つかっていない子の宝をいっしょに探すなどの協力や助け合いという場面が見られた。

またこの日は活動に参加してくれた子の家族の方がスイカを提供してくださり、スイカ割りも行った。スイカ割りなどはやはり集団でないとできるものではなく、みんなで楽しむことができた。

5 日目：流しそーめん

目標→地域の方、親御さんとも交流する

この日の流しそーめんをするにあたって、地域の方にも竹の準備などで協力していただいた。やはりこのような地域の協力がすぐに得られるところが、行政の子育て支援センターなどとは違うところだと感じた。この日は親御さんにも参加をしていただき、親子で楽しんでいただくことができた。この活動の中で今度は子供たちだけでなく小さなお子さんを持つ親御さんの話も聞く事ができ、子育て支援について考える事ができた。

6 日目：プラ板づくり

目標→活動をかたちに残す。

活動最終日ということで、最後はカタチに残したいとプラ板づくりに取り組んだ。どの子供たちもよいものを作りたいと真剣に取り組んでいた。中には学生にプラ板をプレゼントしてくれる子もおり、信頼を築くことができていたと感じた。

４．活動における課題

活動内容の中に、スライム作りを計画したが、実際に活動の中で子供たちと作ってみたところ、うまく固まらずスライム作りは失敗してしまった。その時は、子供たちが巣ライムを作ろうと工夫をしていたが、一度で完成を楽しんでもらうためには、活動の前に、自分たちが実際に試してみて、成功するのかどうかを確認が必要だった。そして、実際に自分たちが試し、成功が確実である状態で子供たちに作って楽しんでもらうための準備をするべきだったことが問題として挙げられた。また、学生間でのコミュニケーション、スタッフさんと学生の間でのコミュニケーションが足りていなかった。そのため、活動中お互いどこまでやってよいのか分からないままになってしまっていた。活動を進める上で、意思疎通を曖昧なままにするのではなく、積極的に相談をしたり、話をする必要があったことが問題に挙げられた。他にも、１日の活動計画で、私たちが計画した内容が多すぎ、自由時間が少ない日があった。逆に内容が少なく、自由時間が多い日もあった。企画の活動時間と自由時間が偏らないための活動計画のメリハリの調整をどのようにすれば良いのか分からず、調整の仕方が最後までうまくいかず、課題として残った。

５．活動を通して学んだこと

活動を通して、子供たちに楽しんでもらうためには、どのようにすると良いのかを学ぶことができた。計画を立てる時には、子供の目線で考えどうしたら楽しいかを考える。そして、活動中には、あそびの最中に私たち自身が楽しんでいないと子供たちはそれを感じ取ってしまい、子供たちも一緒に楽しめない。子供たちの気持ちを盛り上げるために、私たち自身が活動を楽しむことが大切であり、その上で、子供たちがわくわくするように盛り上げる工夫をすることで、子供たちがより楽しむことができることを学んだ。そして、学年の違う様々な子供たちがいる中で、同じ遊びをする時でも、例えば高学年の子に、「低学年の子の面倒もみてあげてね。」と学年ごとに違う課題を与えることで、ただあそぶだけでなく、子供の成長にも繋がることが分かった。また、相手に楽しんでもらうために計画を立て、実行する事の難しさ、相手の立場になって考えることの難しさも活動を通して学ぶことができた。同時に、積極的にコミュニケーションを取ることの大切さも学ぶことができた。学生間、または、スタッフさんに意思を伝えることで、目的がはっきりし、活動を作り上げていくためには、お互いの考えのズレがないようにすることが大切であることを学んだ。

活動をする中で、失敗をすることがあったが、その経験から活動をする前の計画段階で、もっとどのような状況になるかなど予想をして、事前に詳しく考え計画を立てることの重要さを実感した。

スタッフさんと話をする上で、現代の小学生は外で遊ぶための場所が少なく、外で遊ぶ経験がほとんどない。そのため、集団遊びをすることも世代を超えて遊ぶ機会が少な

く、協調性をもって遊ぶことがうまくできない子供が多いという現状を知ることができた。また、親同士や地域の人同士の交流も減っていることも知った。

活動中はどの計画を行う時もスタッフの方、ボランティアの方、参加してくれた子供たちの家族の方の協力に支えられながら、進めていくことができた。また、あんだんてにあるおもちゃは手作りであると知り、支え合うことや人とのつながりの大切さを学ぶことができた。

６．活動先への提案

活動を通して、子供たちが集団で遊ぶことで協力する事を自然と身につけているように感じた。集団遊びは子供たちが成長していく上で必要なものであると思うので、あんだんてが夏休みなどの長期休暇に、ボランティアさんの協力を得ながらでも、子供同士の交流の場を提供していくことができればよいと考える。また、親同士や地域の人同士も交流が減ってきているということで、子供たちが交流するのと同時に、親やボランティアさんが交流を持てる場となれば、あんだんてに来た人同士が繋がりを持ち、そして、地域の人同士のつながりを広げていくことができると思う。そのようなきっかけを与える場となることができたら、地域の人同士の関わりが強くなり、助け合いができていくのではないかと考える。

７．今後の研究テーマ

今後は「地域での子育て支援と NPO 法人」について研究を進めたいと考えています。

具体的なサブテーマは以下の通りです。

・子育て支援の現状
・地域での子育て支援の役割
・NPO 法人格取得でのメリット、デメリット
・NPO 法人格未取得でのメリット、デメリット

＜参考文献＞

・原田　正文、2010、「これからの子育て支援はどうあるべきか」『教育と医学』58(5)、380－387
・奥山　千鶴子、2005、「つどいの広場事業における次世代育成支援」『母子保健情報』52、88－91
・山縣　文治、2010、「地域子育て支援施策の動向と実践上の課題」『季刊保育問題研究』244、6－18